

法政事情
社会正義

文化
グローバルコミュニケーション



FU BUSINESS LAW
PROGRAM

Since 2001 in Seattle and or Fukuoka

CLASS of 2021

Intensive New

Spring

Course

2/16-24/2022

Seattle Nostalgia 2001～



FU Business Law Program
10th Anniversary Celebration at Hyatt
Regency Hotel in Fukuoka, Japan, 2010



Cover of the FU Business Law
Program 10th Anniversary Brochure



10th Anniversary Celebration at Hyatt
Regency in Fukuoka, Japan
Seattle 2007 Class members in 2010



Contents 目次

2021-2022



2014 Seattle Class at SU
International Student Center



2007 Seattle Class in front of the base-
ball stadium in Seattle, Washington



2010 Seattle Class at Seattle Universi-
ty Mock Court



Some 2001 & 2002 Class members
2nd from lt. 2002 Seattle Class Presi-
dent Nozomi Takayanagi

福岡大学経営法学科プログラム2021-2022 Fukuoka University BUSINESS LAW PROGRAM 2021-2022

目次 TABLE OF CONTENTS

Greetings

福岡大学 Fukuoka University

山下恭弘 法学部長 1

Yasuhiro Yamashita, Dean, Faculty of Law

ステファニー A. ウェストン 法学部教授/プログラムコーディネーター 1

Stephanie A. Weston, Professor, Faculty of Law/Program Coordinator

講義概略および講師/講演者 2

2022年集中研修スケジュール

Course Profile & Directory of Lecturers/Presenters

2022 Intensive Course Schedule

①グループA 企業訪問報告(後期) 3

②集中講義特別講演報告(後期集中)

Group A Company Visit Report

Intensive Course Special Presentation Report

①グループB 企業訪問報告(後期) 5

②集中講義特別講演報告(後期集中)

Group B Company Visit Report

Intensive Course Special Presentation Report

①グループC 企業訪問報告(後期) 7

②集中講義特別講演報告(後期集中)

Group C Company Visit Report

Intensive Course Special Presentation Report

①グループD 企業訪問報告(後期) 9

②集中講義特別講演報告(後期集中)

Group D Company Visit Report

Intensive Course Special Presentation Report

シアトル/オーストラレーシア クラス リーダーズ挨拶 11

Seattle/Australasia Class Leaders Greetings

2018年度 卒業生挨拶 13

2018 Senior Greetings

終わりに 13

Closing Remarks



福岡大学法学部
山下恭弘 法学部長
Yasuhiro Yamashita
Dean, Faculty of Law

Greetings
学部長 挨拶

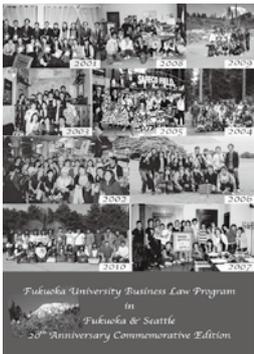
Seattle Nostalgia



2006 Seattle Class students at Lane & Powell Law Firm, Seattle



2009 Seattle Class students with Representative Sharon Tomiko Santos



2020 Seattle Commemorative Brochure Front Cover



2020 Seattle Commemorative Brochure Back Cover

「国際コミュニケーション法政事情」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、今年度も昨年同様に、海外で行う予定のカリキュラムを中止せざるを得ませんでした。とはいえ、この科目を担当するウエストーン教授の熱意・尽力により、海外ではなく日本国内で行われることになった実習が、通常の授業では経験することのないユニークな充実したものとなりました。その詳細がこの報告書に記されていますので、ご覧ください。

さて、「国際コミュニケーション海外研修」は、福岡大学法学部経営法学科の1年次科目として設置され、「国際コミュニケーション法政事情Ⅰ」（前期）、「国際コミュニケーション法政事情Ⅱ」（後期）という一連のプログラムの中で毎年実施されてきました。シアトルでの研修は、これまでに計21回を数えるに至っています。このプログラムに参加する学生は、前期に開講される「国際コミュニケーション法政事情Ⅰ」において、現地での企業、公的機関、公共機関を訪問調査するために準備作業を行うことになっています。この綿密な準備に基づいて海外研修が実施され、帰国後「国際コミュニケーション法政事情Ⅱ」の授業においてその研修成果をまとめ上げるはずでした。

そもそもこの海外研修は、学生諸君が文化の違いを会得し、国の内外での経験を結びつけ、グローバルなリーガルマインドを向上させ、さらには、今後の勉強への意欲を高めてもらうために企画されたものでしたが、中止せざるを得ませんでした。残念至極です。

過去の海外研修からは、この研修を受けたことで、在学中に鋭敏な国際感覚を身につけ、卒業後にこれを活かして様々な社会の場で活躍する先輩たちを数多く見かけます。多大な成果を上げている、こうした充実した研修が、長年にわたり続けられてきたのは、本学部の誇るべき成果といえますが、これは多くの方々のご協力があればこそこのことですし、とりわけウエストーン教授が、米国外交官という輝かしい経歴も活かしつつ、粉骨砕身、この研修を指導してきたからに他なりません。この紙面をお借りして、あらためて感謝申し上げます。

今回の中止を乗り越えて、この海外研修がますます発展し続けますように祈念しながら、挨拶の最後の言葉とさせていただきます。



2014 Seattle Class at Fukuoka International Airport before departure for Seattle



ステファニー A. ウェストン
法学部教授（日米関係論）／プログラムコーディネーター
Stephanie A. Weston
Professor, Faculty of Law/Program Coordinator

昨年に始まった第21回プログラムで、363人の学生を達成することとなりました。残念なことに昨年も今年も新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、通年で行われる法学部国際コミュニケーション法政事情のカリキュラムの中で海外の部分を遂行することができませんでした。しかし私は、今年はそれに代わって2021年の国際コミュニケーション海外研修プログラムの前期後期に、日米の法律、政策、社会正義、文化そしてグローバルコミュニケーションについて、学生たちが学んだことをさらに深めるため2022年の2月に初めての取り組みとして集中科目を作成しました。この新集中科目の中で学生たちに、大学の内外で実践的な研修経験を積むこと、地元での機会を最大限とすることなどを提示しました。加えて行政や民間から外部講演者が参加してください。どうぞ、学生たちが書いたゲストスピーカーのプレゼンテーションに関する概要をご覧ください。

今年度の学生は12名で4グループに分け、前期の課題を後期も継続して行い、福岡で地元の企業や組織を訪問して各代表者にインタビューし、関連する本を読み、集大成として各グループのテーマごとに、1) 動物園経営の将来的課題：福岡市動物園—事例研究、2) 持続可能な社会に向けた小売り活動：大丸—事例研究、3) 国際的教育的促進：福岡インターナショナルスクール—事例研究、4) 食品廃棄問題に対するフードバンクの対策と傾向：特定非営利活動法人フードバンク福岡—事例研究など、後期にプレゼンテーションを行いました。2021年度のシアトルクラスも従来のクラスと同様に彼ら自身で課題に挑戦し、新しい学習の機会を最大に活かすことができました。

Program Profile

法学部の目玉的カリキュラムである実践的研修プログラムは、2001年度米国ワシントン州シアトルでの海外研修を含んで開催しました。2008年に海外研修プログラムはワシントン州シアトルのシアトル大学に移行しました。この特別カリキュラムの六つの目的は、1) 法及び政策決定に関する実践的経験を得る、2) 法及び政策の社会への比較的影響にかんじて分析力を養う、3) 第二次世界大戦の日系アメリカ人の社会正義の問題を理解する、4) 国内および海外での企業事務所訪問から得た情報を取り入れた口頭発表を行う、5) 異文化間体験を通じ枠組みに捉われない考え方を習得する、6) 授業や外部での研修またはホームステイなどを通じて自分の意見を英語で述べるができるようになる、などです。

このカリキュラム(8単位)は三つの科目に別れています:「国際コミュニケーション・法政事情I」「国際コミュニケーション海外研修」「国際コミュニケーション・法政事情II」を開設しました。前期週2回「国際コミュニケーション・法政事情I」。2021年も新型コロナウイルス感染拡大が収まらず、当年度は夏に開催せず、初めて新集中国際研修として2022年2月に福岡で行いました。全体の履修過程を担当するステファニー・ウエスタン教授(法学部国際関係論)以外の講義は、地元のゲストスピーカーにより法政・文化をテーマにして発表がありました。

そこでは小人数でグローバルコミュニケーション力を高め、日米の法政事情及び文化をよりよく理解するために講師による英語でのレクチャーを聞き、英語でディスカッションをしながら、日米間の法律や社会正義、ビジネスの問題および異文化事情を中心として学習しています。「国際コミュニケーション海外研修」は、これまで通りシアトル大学での講義や政府関連事務所、法律事務所などで説明を受けます。また、各グループのプロジェクトテーマに関する関連企業、非政府団体や自治体事務所を訪問しインタビューを行います。シアトルでこのインタビューを実現することができませんでしたので、「国際コミュニケーション・法政事情II」の期間にグループテーマに基づいてそれぞれのグループが福岡で企業/団体訪問をおこないました。

Presenters/Lecturers

Jana Charles

Director
French Chamber of
Commerce Kyushu

Emanuel Ciarravano

Director of Operations
Amai Corporation

Naofumi Inoue

Zookeeping Section 2
Section Chief

Mikiaki Iwasaki

Chair/Head of Secretariat
NPO Food Bank Fukuoka

Akiko Kagawa

President/Managing Director
Hakata Daimaru

Masateru Kawano

Rakusuien/Shofuen/Yusentei
General Park Director

Michiya Kimura

Lawyer
Fukuoka University
Legal Clinic

Robin Schneider

Head of School
Fukuoka International School

Yuki Kondoh-Shah

U.S. Consul/Director
U.S. American Center

Stephanie Weston

Professor, International Relations
Faculty of Law
Fukuoka University

OBs

Masateru Higashi

2015 Seattle Class Group C Leader
Police Office in training

Nozomi Takayanagi

2002 Seattle Class President
President Big Tree Co.

Moeri Uemura

2017 Seattle Class member
Long term overseas study/internship
Vancouver/Kelowna, B.C., Canada



2003 Seattle Class at Fukuoka International Airport before departure for Seattle

2022 Intensive Course Schedule

福岡大学 (法学部一経営法学科1年のみ)
令和3年度 国際コミュニケーション海外研修 (後期集中) スケジュール
2022年2月16日-2月24日

曜日	月日	午前の研修	昼食	午後の研修
水	2/16	(1) 10:40-12:10 オリエンテーション (授業の流れ: 課題の説明など) (ウエスタン教授指導)	福大構内	(2) 13:00-14:30 「異文化を超えた相互理解」講義と質疑応答 (ウエスタン教授指導)
木	2/17	10:00 現地集合 (3) 10:40-12:10 「友泉亭公園」の学習と見学 (統括園長川野雅照氏による歴史と文化に関する講話)	友泉亭; 福大教室	(4) 14:00-15:30 プレゼンテーション準備 I (ウエスタン教授指導)
金	2/18	(5) 10:40-12:10 アメリカンセンター館長及び領事ユキ・近藤・シャーマン氏「アメリカのソフトパワー」講義と質疑応答 (日本語と英語) (グループD 報告書レポート)	福大教室	(6) 13:00-14:30 福岡リーガルクリニック法律事務所弁護士の木村道也教授「福岡リーガルクリニック法律事務所の福岡大学内外における業務の説明と今後の課題」講義と質疑応答 (日本語) (グループC 報告書レポート)
土	2/19	10:40-12:10 遠隔授業「アメリカの裁判制度 (動画)」及び小テスト		
日	2/20			
月	2/21	(8) 10:40-12:10 プレゼンテーション準備 II (ウエスタン教授指導)	福岡教室; 福岡市役所か 他のビジネス 団体の会場	(9) 13:00-14:30 仏商工会議所九州デスク代表ヤナ・シャル氏「九州における仏商工会議所について」講演と質疑応答 (日本語と英語) (ウエスタン教授授業統括) (グループB 報告書レポート)
火	2/22	(10) 10:40-12:10 「アメリカの各地域の文化」- 動画とディスカッション (ウエスタン教授指導)	福岡教室	(11) 13:00-14:30 最終プレゼンテーション準備 III (ウエスタン教授指導)
水	2/23	(12) 10:40-12:10 13:00-14:30 最終プレゼンテーション準備 IV (ウエスタン教授指導)	福岡教室	(13) 13:00-14:30 「異文化間情報」講義と質疑応答 (ウエスタン教授指導)
木	2/24	(14) 10:40-12:10 最終プレゼンテーション I	福岡教室	(15) 13:00-14:30 最終プレゼンテーション II

A

Group

Training Report 2021-2022



Group A members - lt. to rt. Kodai Moriuchi (Group Leader), Ayumi Fukuda and Nanaka Eto at Fukuoka Zoo & Botanical Garden for an interview about their group topic- Future Challenges of Zoo Management: Fukuoka Zoo-A Case Study



Group A students interviewed Chief of Zoo-keeping Section #2 Mr. Naofumi Inoue about their group topic.



Ditto.



Group A made their final presentation about their group topic during the fall semester of 2021.

Group Members: Kodai Moriuchi **, Nanaka Eto, Ayumi Fukuda

**Class President/Group Leader

グループメンバー：森内 滉大 **, 江藤 菜々果, 福田 歩

** クラスプレジデント / グループリーダー

Group Topic: Future Challenges of Zoo Management: Fukuoka Zoo - A Case Study

グループテーマ：動物園経営の将来的課題：福岡市動物園－事例研究

Company Visit Report (Fall Semester 2021)

皆さんは動物園にどのようなイメージを持っていますか？実際は、動物たちが元気いっぱいに来園者をおもてなしする以外にも、さまざまな目的があります。動物園はその目的を達成するため多くのことを行っています。動物園には公営と民営という2つの異なったタイプがあり、それぞれに異なった目的があります。動物園はまた、絶滅危惧種に対する保護や調査研究も行っています。その解決のため、動物園にはまだまだ多くの課題があります。将来動物園に行ったとして、もし動物に少しの興味を持って、実際に行動に表す事ができれば、素晴らしいと思います。今回私たちのグループは、経営スタイル・動物保護・今後の課題という3つの視点で福岡市動物園（飼育係）第2係の井之上尚文係長にインタビューしました。

経営

民営に対して市営ということで、動物園の経営スタイルについて福岡市動物園には、①種の保存、②教育、③調査研究、④レクリエーションなど4つに焦点を当てた大きな目的があります。福岡市動物園は主に市民の納税で運営されているので、主に来園者の収益で運営される民間の動物園に比べて、新型コロナウイルスの影響は緩やかでした。同時に福岡市動物園は入園者数を増やす方法として、定期的に獣舎の整備や改築を行うことで、入園者の興味が途切れないようにしています。また斜面を活用した展示の方法や、生息地の環境を再現した展示をすることで、より生き生きとした姿を見せられるようにしています。

運営に関して他にも気付いたことは、驚くべきことに、動物園の運営に関して総合的な法的指針はなく、『動物園の従業員の知識の向上を図るため、「(公社)日本動物園水族館協会 (JAZA)」が出版した管理ハンドブックがある』ということでした。¹ 同時に運営は、「絶滅寸前の動植物を保護する」ワシントン条約など動物の輸入に関する法律を順守しています。私たちは、民間で運営するアフリカンサファリに行き、異なる動物園の経営スタイルを比較するつもりでいます。

動物保護の傾向

ほぼ絶滅の状態にある動物を含めて動物の保護に貢献する目的で、(公社)日本動物園水族館協会 (JAZA) に加盟しています。福岡市動物園だけでは保護できる種類に限りがあるので他の動物園とも協力して活動しています。例えば、片方の動物園にオスだけがいて、もう片方の動物園にメスしかいないとすると、片方に動物を預けて繁殖させたりします。

重要な(公社)日本動物園水族館協会の主な活動の一つは、1988年に創設された種の保存委員会です。絶滅危惧動物に関して、例えば、福岡市動物園が最も力を入れている事業がツシマヤマメコノ繁殖です。ツシマヤマメコノは、絶滅危惧種に認定されており数が極めて少ないです。福岡市動物園は、様々な工夫を凝らしてツシマヤマメコノの繁殖に取り組んでいます。さらにこの種の取り組みは、日本の環境省の絶滅の恐れのあるレッドリストに注目を向けさせます。²

また動物保護の主要なことは動物園の教育活動です。福岡市動物園には新しい施設として「ズーラボ」があります。幼稚園から高齢の方まで楽しめることと同時に、動物のことをもっと詳しく知ってもらうための施設であり、講演などの活動も行っています。

今後の課題

動物の管理や保護を含めて、福岡市動物園は挑戦を続けています。まず最初は新型コロナウイルスが流行して動物園の構想が変わったことです。新型コロナウイルス流行拡大のために人の行き来が減少しました。そこで建物のリニューアルなどを行ったりコロナウイルス禍でも取り組みが行われています。

次に動物園で重要だと思われる、動物が住みやすい建物設計についてです。福岡市動物園では、例えばコツメカワウソウのエリアではプールを作ったりしていました。また、動物愛護法では、午後8時から午前8時までは展示できない定めがあります。福岡市動物園が最も大切にしている事は、動物の希望を叶えてあげることだそうですが、現段階では、野生動物のように広々とした空間などは難しく再現不可能な所もあり課題だそうです。

¹ https://www.env.go.jp/council/14animal/y143-07/mat04_2.pdf

² <https://www.jaza.jp/assets/document/about-jaza/document/COP10-Booth-scene.pdf>



Green tea at Yusentei



At Fukuoka Zoo



At Fukuoka Zoo

Group A

Training Report 2021-2022



Group Leader Kodai Moriuchi during Group A's final presentation during the fall semester of 2021



At Yusentei Japanese Garden in Fukuoka, Japan



Ditto.



Group A's Intensive Course Presentation

もう一つの課題は入園者への対応です。私が福岡市動物園の取組みで凄いと思ったのは、動物の誕生日に誕生日ケーキを食べている所を入園者に見せたり、夏休み期間中には夜の動物園として、18時から21時まで夜行性動物を見せる企画などです。他に感心したのは、福岡市動物園は地形的に斜面が多いので、スロープを整理したり坂道を緩やかにしたり、入園者が歩きやすいようにさまざまな配慮を施していることです。

結論としては新型コロナウイルス禍後も、福岡市動物園は、57種の哺乳類、88種の鳥類、23種の爬虫類を含む合計160種、およそ700の動物の資源管理に専念することを続けるでしょう。³ また福岡市動物園にとって重要なことは、絶滅した動物あるいは絶滅危惧動物の研究調査の継続です。最後に、動物園は動物情報館ズーラボと共に取組んだように、民間のセクターと協同して新しいアトラクションを導入します。さらに将来の動物園の魅力で重要なことは、動物や来園者に対するこれまで以上の刷新と創造です。

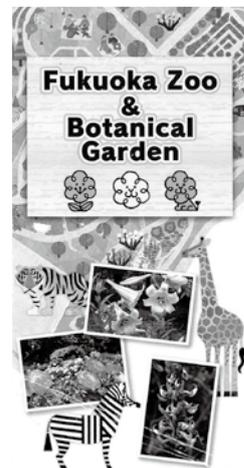
Intensive Course Report (February 2022) 集中研修報告 (2022年2月後期集中)

Presenter : Masateru Kuwano
Rakusuien/Shofuen/Yusentei
General Park Director
講演者 : 川野雅照氏
General Director
統括園長
Rakusuien/Shofuen/Yusenteikoen
築水園・松風園・友泉亭公園

Topic : Yusentei's History and Culture
テーマ : 友泉亭の歴史と文化
February 17, 2022
2022年2月17日



Group A member Ayumu Fukuda asked a question of the U.S. Consul Yuki Kondo Shah after her presentation on February 18, 2022.



今回私たちは友泉亭公園へ行きました。統括園長の川野雅照さんのお話で興味深かったものが3つあります。まず、友泉亭の敷地の広さとその歴史です。当時は鳥飼から油山まで28,000坪あったそうです。友泉亭は1754年の江戸中期に黒田家の別荘として建てられ、6代目から11代目までは実際に住んだそうです。明治時代に事実上の廃藩で黒田家は東京に移り、炭鉱会社が土地を買取りました。広大な敷地には、病院、学校、役場など様々なものが建てられ昭和56年に福岡市の庭園となりました。次に、細い柱で屋根を支える技術が使われていることです。現存する友泉亭は書院造で80年前に建てられたものです。かなり重い屋根を細い柱が支えていることに驚きました。最後に、灯籠の意味です。公園内にある灯籠は江戸時代から存在するものもあるそうです。灯籠は5つのパーツからできて上から、空、風、火、水、地を表し、東北側に置かれています。その理由は、日本では東北側を鬼門と考えその方角から鬼が来ると信じ、東北側を守るように灯籠が設置されたそうです。福岡にこのような和風の建物があることを知らず、その存在は今回初めて知りました。友泉亭公園は心が安らぐ場所なので、機会があればまた訪れたいと思います。



Rakusuien/Shofuen/Yusentei General Park Director Masateru Kawano spoke to the students about Yusentei's history and culture.



2021-2022 Seattle Class President Koudai Moriuchi thanked Mr. Kawano for his presentation.



Tea served to the 2021-2022 Seattle Class members at Yusentei

³ "The Fukuoka Municipal Zoo and Botanical Garden," *Feel Fukuoka Japan*, Japan 19, 2021, <https://feelfukuoka.com/en/sightseeing/zoo/>

A Once in a Lifetime Chance

B Group

Training Report 2021-2022



Group B at Daimaru offices for an interview with Hakata Daimaru President/Managing Director Akiko Kagawa



Hakata Daimaru President/Managing Director Akiko Kagawa answered Group B questions about their topic - Retailers for a Sustainable Society: Daimaru - A Case Study.



Group B Leader Kazuyua Yasunaga thanked Hakata Daimaru President/Managing Director Akiko Kagawa at end of the interview.



Group B delivered their final presentation during the fall of 2021 about their group topic.

Group Members: Kazuyua Yasunaga*, Miwa Takaki, Shuhei Yabuuchi

*Group Leader

グループメンバー：安永 和哉*、高木 美和、藪内 崇平

*グループリーダー

Group Topic: Retailers for a Sustainable Society: Daimaru-A Case Study

グループテーマ：持続可能な社会に向けた小売り活動：大丸—事例研究

Company Visit Report (Fall Semester of 2021)

私たちのグループは持続可能な社会に対してどのように小売業が貢献しているかということに興味を持ちました。これはSDGs（持続可能な開発目標）の概念を具体化する上で、会社の主となる経営戦略となります。そこで私たちは博多大丸デパートを訪問することに決めました。⁴ 2007年に大丸は、Jフロントリテイリング株式会社のグループに入りました。このグループで大丸は、循環型経済・脱炭素社会の実現・サプライチェーンの管理・地域社会との共生・その他のSDGsに関連する目標などを奨励しています。株式会社博多大丸で私たちは、代表取締役の香川暁子社長にお会いして、地産地消の活動、環境への取組み及び将来的課題など、私たちのテーマに関連するさまざまな質問をしました。

大丸の企業で行っている地産地消の活動について、大丸が300年も続いている秘訣や大事にしている理念なども伺うことができました。大丸はサステナビリティ経営（長期で利益を出し続けるために、リソース配分を行う経営）に力をいれておりSDGs企業ランキングでも第3位に入っています。“SDGsの心”ともされている“先義後利”は大丸の根本理念としている言葉で、「企業の利益は、お客様・社会への義を貫き、信頼を得ることでもたらされる」という意味だそうです。地域コミュニティとの共生やその他SDGsの重要性などの考えに関連して、大丸の代表的な取り組みとして“九州深発見”があります。新たな九州の魅力を見つけ、行政と協力し、情報を収集し発信するプロジェクトです。魅力溢れる九州の「モノ」や「コト」を発掘し紹介する事によって九州全体の活性化を目指す取り組みです。九州・沖縄の全119市を訪問し、各市とアンバサダー契約を締結する予定です。現在は87市と契約しています。またアンバサダー認定市の観光広報活動など定期的な九州深発見マルシェをエルガーラ・パサージュ広場で開催しています。

地域コミュニティやこの種の持続可能な経営戦略に加えて、他の循環型経済への大丸の構想もまた、持続可能な社会に貢献しています。循環型経済は、「3R（削減・リデュース、再利用・リユース、再生・リサイクル）」を基本としながら、技術革新などを通じて資源循環を促し新たな価値を生むことを目指す経済活動やその体系を指します。大丸では、生産・物・消費の循環を経営の基礎としています。例えば使わなくなったものを回収し、その代わりにクーポンを配布することで経済活動を循環させるなど3Rに回るルートを確認させています。大丸が目指しているのは消費者とつながるエコ活動です。また2009年から始まった「ペットボトルキャップを集めて、世界の子供たちにワクチンを届けよう！」キャンペーンではこれまでに29万1452人分のポリオワクチンを寄附して地域活動や海外の開発途上国の発展に貢献しています。その他にも森林の乱伐採によるCO2増加を防ぐために、植林や自分たちで管理した土地から紙を作ることで原料の工程のコントロール化を行い、残りの利益を寄付するなどの活動を行っています。環境活動には多くの費用が掛かりますが、活動自体を大丸の事業の一部とし循環型社会を作っていくために様々な工夫や戦略が見られます。このように大丸は環境活動と経済循環を同時に行う小売業の見本となる企業だと思いました。

最後に大丸が抱える将来的な課題と持続可能な社会問題に目を向けます。SDGsに取り組むことを決めた段階で苦労したことは、組織であるが故に全ての人員にしっかりと説明をしなくてはいけないことです。大丸は全ての社員にSDGsについて教育し、全員の理解に取組んでいます。

またこのSDGsの取り組みを行う上で現在特に注目している事は、コロナ禍が回復した後の企業方針についてでした。SDGsの取り組みを本格化しようとしたまさにその時に、日本の経済は新型コロナウイルスの流行の影響を大きく受け、思うような取り組みができず、活動に大きな支障をきたしたと言います。そこで注目しているのが新型コロナウイルス感染症終息後の取り組みであると仰っていました。これまで鈍化していた活動を一齐に見直し、デジタルの活用と共にやり直しを図るそうです。そんなSDGsの取り組みも、より多くの人々に認知してもらう必要があるため、消費者が実際に取り組みに参加できる場を作ること目標としているそうです。デジタルのみを用いた活動ではなく、店頭と消費者を直接繋いだ活動を行なっていくということでした。

⁴ The original Daimaru store was initially founded in 1717 in Kyoto.



Group B's Intensive Course Presentation



Group B delivered their final presentation of the spring semester of 2021.

Group B

Training Report 2021-2022

Seattle Nostalgia



University of Washington signage



2014 Seattle Class members at ohanami in Nishi Kouen in Fukuoka



2015 Seattle Class at the Federal District Court in Seattle



Some 2014 Seattle Class members at Seattle University

最後に、私たちはここで博多大丸の持続可能性への取組みに関して、地産地消の活動・環境への取組み・将来的課題の3つの異なる分野について報告しました。博多大丸は九州でSDGsを促進する指導的役割を担い、そのビジネス的成長だけではなく持続可能な社会への貢献もしています。消費者である私達にも意識すべきことがあります。それは、私達が日々消費するものに対して関心を持つことです。「この商品はどう作られているのか?」「誰によって作られているのか?」などの意識を、日々の消費行動一つ一つに対して持つことが我々に求められています。

Intensive Course Report (February 2022) 集中研修報告 (2022年2月 後期集中)

Presenter: Ms. Jana Charles

講演者：ヤナ・シャル氏

Director

九州デスク代表

French Chamber of Commerce and Industry

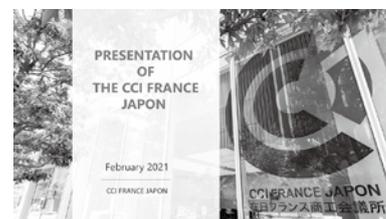
フランス商工会議所

**Topic : French Chamber of Commerce and Industry activities
in Kyushu & Charles' Career Story**

テーマ：フランス商工会議所の活動とシャル氏のキャリア談

February 21, 2022

2022年2月21日



Power point slide courtesy of French CCI Kyushu Director Jana Charles



French Chamber of Commerce and Industry Kyushu Director Jana Charles spoke to students about her career path and the CCI activities.

フランス商工会議所九州デスク代表ヤナ・シャルさんから選択・仕事・それに対する考えを話して頂きました。その中で「扉を開ける」という言葉が多く出ました。ヤナさんは選択肢がふりかかってきた時、できるかを考えるのではなくまずやってみて、その繰り返しでたくさんの経験を得ました。彼女はこれまでやって来た仕事と今の仕事の良し悪しは共に50:50であると話しました。このことから全てがうまくいくことはないがやりがいがある仕事が1番いいということが伝わってきました。そのやりたいことにどうやったらなれるか調べて成し遂げることは素晴らしいことです。自分で起業するなんてやり方がわからず、日本人はそれで安全な会社員などを選びます。しかしそうならないようにしたいです。シェアハウスのオーナーになった話を伺って、自分で調べやってみてうまくいくことがあるということが分かりました。いろんなことに興味を持ち複数のことをやることで人脈も広がり可能性も広がります。何でもチャンスを逃さず挑戦してみることが大事です。フランス商工会議所は初めて知りましたが、ビジネス上のサポートや国際交流ができる様々なイベントがあることが分かりました。参考となる選択肢が増えました。



French Chamber of Commerce and Industry Kyushu Director Jana Charles also spoke about the CCI's activities.



Ms. Charles explained about her different life and work experiences.



Group B member Shuhei Yabuuchi thanked Ms. Charles for her presentation.

C Group

Training Report 2021-2022

Group Members: Haruna Murata *, Sarasa Fukuzumi, Koya Tanaka

*Group Leader

グループメンバー：村田 陽菜*、福澄 更紗、田中 滉也

*グループリーダー

Group Topic: The Promotion of International Education: FIS-A Case Study

グループテーマ：国際的教育の促進：福岡インターナショナルスクール—事例研究

Organization Visit Report (Fall Semester 2021)

私たちは、2022年に50周年を迎える福岡インターナショナルスクール（小学課程から高等課程まで）（FIS）を訪問し、校長のシュナイダー・ロビンさんに国際化が進む日本の教育、そしてFISの教育方針について話を伺いました。国際化が広がっている背景には、国際関係の変化や技術の進歩が関係していると考えます。今回このテーマを選んだきっかけは、日本における国際的な教育がどのように進んでいるのか興味を持ったからです。特に、国際教育の傾向、財政支援、今後の課題の3点に焦点を当て調べました。

FISのような国際教育に力を入れた学校は、福岡において重要な役割を担っています。FISは英語での授業が特徴的で、国際バカロレア（IB）という特殊な国際教育システムを導入しています。IBとは、世界の複雑さを理解して、その事に対処できる生徒を育成すると共に、国際的に通用する大学進学へのルートを確保することを目的として設置されたものです。FISはこうした生徒を育てるための授業を展開しています。その制度に従って興味深いのは、試験がないことだと思います。その主な理由は学生の意欲や関心を重視しているからです。FISの学生の国籍は32カ国で、多くの学生がさまざまな教育制度を経験し、学生の要望に対応するために、知識だけを問うテストではなく、その知識を使ってどういうことを実践するかなどをプロジェクトやプレゼンテーションにして評価しています。

その教育課程やさまざまな教育経験を持つ生徒の多様性に加えて、FISの教師はそれぞれに多様な国際的背景を持っています。これらの国際的側面に基づいて、FISでは3つの言葉を大切にしています。それは「インクルード/多様な人材を包含する」「エンパワー/権限を与える」「インパクト/影響を与える」です。インクルードは多様性を受け入れられるようになってほしいという願いを込めて、エンパワーは多くのことを学ぶために必要とされる力、インパクトはエンパワーからの学びで得た内容は自分の人生に影響を与えるということを表しています。

FISの重要なグローバル的役割を考えると、開校当初は様々な企業や地方自治体に財政的な支援を受けました。その中でも代表的なのは、福岡銀行、福岡市（学校の敷地）、アメリカ領事館などがあり、多くの支援を受けたことで、FISは現在、企業からの財政的な支援をあまり受けとっておらず、学生からの授業料などで学校を運営できるほどに成長しました。FISは、生徒の経済的支援の資金を限定しています。現在は、インターナショナル・マインド・スカラシップがあります。この限られた経済的支援にもかかわらずFISは、50年間多くの入学者がいます。

最後に私たちのグループは、日本のシステムの中における国際化教育の推進についてさらに調査することにしました。日本の教育システムとFISの共通点は、礼儀、ふるまい、将来成功できるような学習に取り組んでいるところです。まずFISのシュナイダー校長との面談で分かったことは、日本の教育システムとFISの共通点は、礼儀・振舞い・将来性に関する学習に取り組んでいることです。しかしまた、彼は、それぞれの教育システムには長所や短所があるため日本の教育と全て同じにする必要はない、と強調していました。

私たちの意見は、日本の国際化教育の一つの改善点は、授業の規模やテストのアプローチや生徒全員で同じことを学ぶという日本の風習であるということです。また、教師の訓練に力を入れるべきです。例として、日本は小学校の英語授業に力を入れ始めましたが、教師が英語を十分に学んでいないまま生徒に対して授業をするのは困難です。そのため、教師に対してより良い授業を行うための訓練の場が必要です。FISでは、近隣の学校の教師がFISの英語の授業を受けることや、FISが近隣の学校に行き実際に英語授業を行う取り組みが行われていました。さらに福岡教育委員会は、教師が学ぶ場を設けていますが、参加が義務化されていないため、義務化するべきだと考えられています。

結論として、国際化教育の振興は、学校だけではなく教える側のスタッフや生徒による関与の一定のレベルを必要とします。FISは、近隣の環境から世界へ影響を広げて、インクルード・インパクト・エンパワーを続けていこうと思います。



Group C with the Head of Fukuoka International School
lt. to rt. clockwise FIS Head of FIS Robin Schneider, Group C Leader Haruna Murata, Koya Tanaka and Sarasa Fukuzumi



Group interview at FIS



Group C leader Haruna Murata thanked FIS Head Robin Schneider.



Group C's presentation about their group topic during the fall semester of 2021

Group C

Training Report 2021-2022

Seattle Nostalgia



2015 Seattle Class President Riku Kogo thanked SU Site Instructor Norma Gorham at the closing ceremony at Seattle University.



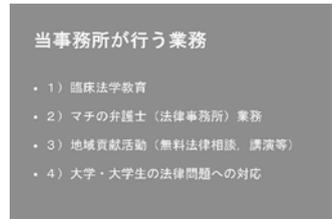
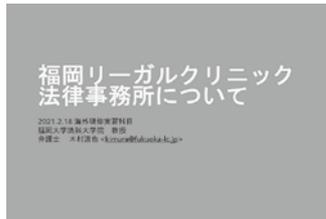
Some members including Director Aaron Bidelsbach (far left) of the University of Washington Outreach Office which hosted our program at UW 2001-2008; The President of Intercultural Homestays and Services Eileen Beaupre (2nd from the right), also pictured, joined one of the closing ceremonies for our program at UW.



Famous Pike Place Market in Seattle



In front of the Burke Museum on the University of Washington campus at the end of one of the FU Business Law Programs at UW



Slides courtesy of FU Law School Professor/Lawyer Michiya Kimura

Intensive Course Report (February 2022) 集中研修報告 (2022年2月 後期集中)

Presenter: Michiya Kimura

講演者: 木村道也氏

Lawyer

弁護士

FU Legal Clinic

福岡リーガルクリニック

Topic: FU Legal Clinic and Community Services

テーマ: 福岡大学リーガルクリニックとコミュニティサービス

February 18, 2022

2022年2月18日



今回の講義では、福岡大学内にある福岡リーガルクリニック法律事務所の弁護士で法科大学院教授の木村先生に「大学内にある法律事務所の現状」についてお話を聞きました。

木村先生によると、実際に法律事務所がある大学は日本の中でも5つほどしかないそうです。事務所でされている業務は大学や大学生の法律問題の対応だけではなく、臨床法学教育や講演等の地域貢献活動などがあります。法律事務所を大学内に設置することで法曹資格取得を目指す人のために、より身近に優れた人材育成を行い、法学の真理を追求し発展させることができます。また、大学生が気軽に相談できるため、大きな犯罪に発展する前に防ぐことができます。しかし木村先生は、大学内に法律事務所設置数が少ないのが現状で、業務を無料で提供することは儲けにならないのが前提なので増やすことは難しい、と仰ってました。それでも私たちのために「どういふ詐欺があるか」「自分が犯罪に巻き込まれた時の対処法」などのサイトを作って呼びかけてくれる弁護士の方たちは、私たちにとってなくてはならない存在だと改めて思いました。私達も自分自身や周りの人達を守るために知識を身につけようと思いました。



FU Law School Professor/Lawyer Michiya Kimura spoke to students about the activities of the Fukuoka Legal Clinic Legal Office as well as different legal cases.



Ditto.



Group C Leader Haruna Murata thanked Professor/Lawyer Kimura for his lecture.



Group C members during an interactive session during the presentation of the U.S. Consul Yuki Kondo-Shah



FU Law School Professor/Lawyer Michiya Kimura during his lecture to students



Group C's Intensive Course Presentation



Group D's Intensive Course Presentation

D Group

Training Report 2021-2022

Group Members: Yamato Habu *, Misato Hayashi, Shingo Kawasaki
*Group Leader
グループメンバー: 羽生 倭 *, 林 美里, 川崎 心吾
* グループリーダー

Group Topic: Food Bank Policies and Trends Concerning Food Loss: NGO Fukuoka Food Bank - A Case Study
グループテーマ: 食品廃棄問題に対するフードバンクの対策と傾向: 特定非営利活動法人フードバンク福岡—事例研究

Organization Visit Report (Fall Semester of 2021)

平成 12 年に日本初のフードバンク、セカンドハーベストが誕生し、日本各地に広がって発展してきました。私たちは日本で貧困が起きている事をメディアを通して知り、フードバンクに興味を持ちました。そして『食品廃棄問題に対するフードバンクの対策と傾向』について事例研究として、フードバンク福岡を訪問しました。この団体は、食料不足に苦しむ貧困者、児童養護施設及び家庭内暴力の被害者に対する食料支援を主な職務内容としています。フードバンク福岡の、傾向・食品廃棄・将来的課題について福岡の理事長、岩崎幹明様にお話を伺いました。面談から得た重要な点を取り上げながら感想を述べます。

国内のフードバンクは年々増加傾向にあり、日々食品ロス及び貧困者救済に向けて活動を行なっています。現在の新型コロナ禍で、特にシングルマザーなどの貧困が目立っている状況で、食品提供の問い合わせが格段に増えている状況です。そのためフードバンクが個人に配送をかけたたりなど、あらゆる新たな活動を主軸とし対応している傾向にあります。

食品廃棄対策としてはメーカーの食料提供に加え、現在フードドライブ活動が発展しています。家庭内で使わない食品を提供するというフードドライブ活動の、社内や学校による参加の呼び掛けや専用のボックス設置により活動促進につなげています。フードドライブによる食品提供は私たちにできる食品ロス改善活動であり、活動への参加が食品ロスについて考えるきっかけにもなっています。

フードバンクには課題が沢山あります。例えば、今困っている全ての人に食品が行き届いてないということです。食品が足りないというだけでなく、フードバンクのことを知らない人も多くいます。そのため、これからはフードバンクを社会の仕組みの一つにしていくべきです。今回訪問したフードバンク福岡では、いつ政府からの助成金がなくなるか分からない中で運営をしていました。政府がもっと協力していくべきであると考えます。

今回この経験を通し、フードバンクによる活動が人々の生活に大きな影響を与えていることをよく理解しました。フードバンクでの活動は我々が想像する以上に過酷なものであり、一つ一つの行動に深い意味を感じました。まだまだ発展途上の状態ですが、新たな活動を通して、これからフードバンクという団体が 1 人でも多くの貧困に苦しむ人々を救済できることを私たちは願います。



Guest Speaker (seated in the middle) Emanuel Ciarravano spoke to students about Global Business during the fall semester of 2021.



Group Leader Yamato Habu asked NGO Fukuoka Food Bank Chair/ Head of Secretariat Mikiaki Iwasaki about Group D's topic -Food Bank Policies and Trends Concerning Food Loss: NGO Fukuoka Food Bank- A Case Study



Group D members - lt. to rt. Misato Hayashi, Shingo Kawasaki and Yamato Habu (Group Leader) with Mr. Mikiaki Iwasaki, Head of the organization's Secretariat, outside of the NGO headquarters



NGO Fukuoka Food Bank Chair/Head of Secretariat Mikiaki Iwasaki spoke to Group D members in the NPO's storage area.

Intensive Course Report (February 2022) 集中研修報告 (2022 年 2 月 後期集中)

Presenter: Yuki Kondo-Shah

U.S. Consul/ Director of U.S. American Center

講演者: ユキ・近藤・シャー氏

福岡米国領事館広報担当領事 / 福岡アメリカンセンター館長

Topic : Soft Power Storytelling and Influence

テーマ: ソフトパワーのストーリーと影響

February 18, 2022

2022 年 2 月 18 日



U.S. Consul Yuki Kondo-Shah during her CISCO Webex presentation about Soft Power Storytelling and Influence

今回私たちは全世界で注目されているソフトパワーについて、在福岡米国領事館広報担当領事兼福岡アメリカンセンター館長ユキ・近藤・シャー氏にお話をいただいた。これまで世界各国は戦争、軍事力、威圧といった、いわゆるハードパワーを用いて自国の能力、強さを知らしめてきた。一方現代ではそのような物理的支配ではなく、自国の魅力的な文化を最大限に活かし、他国を説得するソフトパワーの考え方を重視する傾向がでてきている。ソフトパワーは政府の領域を超えるものでなければならないこと、自国のソフトパワーをただ所持するのではなく、それを他の国に伝える能力が求められること、どの国にもそれぞれに見合ったソフトパワーが存在することなど、大きく分けてこの三点を主張された。私たちは特に三点目が印象深い。どの国にもその国に見合ったソフトパワーが存在する。それと同時に、必ず解決しなければならない課題もある。例えば今回話に出たアメリカは、確かに世界の中心であり、とても魅力的でクリエイティブな文化を持つが、そのアメリカでさえこのコロナ禍で弱点が浮き彫りになった部分もある。つまり、完璧な国など存在しない。私たちが認識しないといけないのは、世界中の国々が自国の文化を活かすとともに、他国の文化も尊重する必要があるということだ。これを私たちは主張したい。

2021 Seattle-Australasia Welcome Party 042621



2021 Seattle Class



No Action, No Results



1.



2.



3.



4.



5.



6.



7.



8.



9.



10.



11.



12.

1. 2021 Seattle Class members on the last day of the fall semester of 2021 at Fukuoka University
2. 2002 Class President Nozomi Takayanagi gave a presentation to 2021 Seattle Class members.
3. Ditto.
4. Amai Corporation Director of Operations Emanuel Ciarravano spoke to 2021 Seattle Class members about global business during the fall semester of 2021.
5. Seattle/Australasia Leaders at the end of the year gathering at a local restaurant
6. 2021 Seattle Class members It, to rt. Ayumi Fukuda and Yamato Habu role played judges at Fukuoka University Law School mock court.

7. One of the Fukuoka University Law School professors explained about a mock case at Fukuoka University Law School mock court
8. Amai Corporation Director of Operations Emanuel Ciarravano (seated in the middle)
9. Seattle/Australasia Leaders just before an end of year gathering with Professor Weston
10. 2015 Seattle Class Group C Leader Masateru Higashi visited the 2021 Seattle Class during the fall semester of 2021.
11. 2017 Seattle Class member Moeri Uemura spoke to the 2021 Seattle Class about her long term overseas studies in Canada.
12. 2021 Seattle Class Group D Leader Yamato Habu thanked the U.S. Consul-Yuki Kondo-Shah after her presentation during the students' intensive course held during February of 2022.

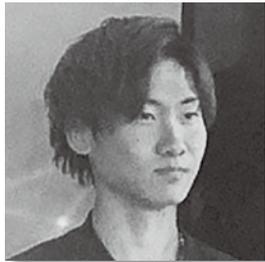
SEATTLE AUSTRALASIA LEADERS - GREETINGS



Chihiro Kuwano
桑野 千裕

Long Term Study Overseas (Ottawa, Canada)/2018 Seattle Class President/ Group A Leader/NZ 2019-2020 Group E Leader

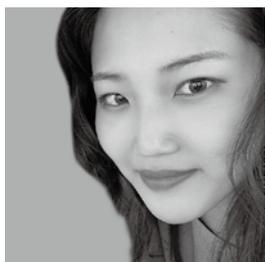
このSeattle研修は、大学一年生で参加できるということに、とても意義があると思います。この研修では、さまざまな人や異国の地の自然に慣れ親しむことができます。私は、Seattle研修を経て、人や物に対する興味がますます強くなりました。その後の大学生活における活動範囲が明らかに広がったことを実感しています。海外研修期間のみならず、研修前後の授業・活動も含めて、新しいことに挑戦することの面白さを教えてくれました。もし、みなさんがこの研修に参加できるようなチャンスがあったら、まずは一歩踏み出すことから始めて欲しいと思います。その先には、自分では想像できなかった世界が広がっていると思います！



Kazuma Wada
和田 数馬

2018 Acting Seattle Class President (08/2021-03/2022/2019-2020 NZ Group D Leader/2018 Seattle Group D Member

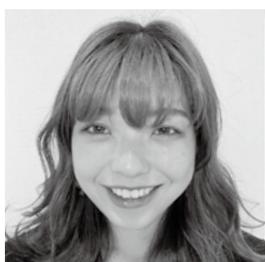
二度の海外研修に参加した私にとって、ウエストン先生は私が大学時代で一番お世話になった先生です。海外研修中の良い出来事や悪い出来事、全てが今の私につながるとても良い経験となっています。皆さんもぜひ、楽しいゼミ活動を送ってください。先生、本当にありがとうございました。



Aki Matsuishi
松石 愛希

2019 Seattle Class President/Seattle Group A Leader/NZ Group E Leader

このプログラムは、講義から得られるものだけでなく、シアトルの生活を通して異文化や価値観などの様々なことを実際に現地へ行って身で感じるものがたくさんありました。国際感覚を身につけることで自分の今までの価値観が大きく覆され、物事の見方も変わってくると思います。かけがえのない仲間と一緒に成長できるこのプログラムにチャレンジして良かったと心から思います。

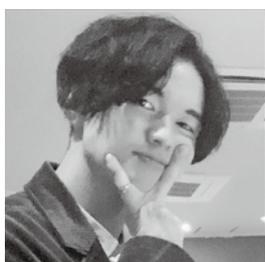


Rena Nakashima
中嶋 玲奈

2021-2022 NZ Class President/Group A Leader/2019 Seattle Group D Leader

こんにちは！皆さんは大学生活にどんな憧れを抱いていますか？シアトル研修・ニュージーランド研修は海外に興味がある人や新しいことに挑戦したい人にぴったりのプログラムです。実際に現地でホームステイをし、企業訪問や裁判所見学など他ではできない経験をすることができました。日本語が通じない環境で生活するのは大変でしたが、刺激的な毎日とても充実した研修でした。新しい友達とも仲を深めることができ、懇親会などで先輩達との関係も築けるので、大学生活で不安なことやわからないことも気軽に相談することができます！

今、一歩踏み出すことで大学生活が充実したものになり、貴重な経験をすることで将来の視野も広がると思います。是非このプログラムに参加してみたいかですか？皆さんに会えるのを楽しみにしています！



Seiga Taniguchi
谷口 星雅

2021-2022 NZ Vice President/Group E Leader/2019 Seattle Group D member

今回初めて、副会長に任命されました谷口星雅です！一年生の頃はシアトルのクラスにいたのでここでの経験などを生かして頑張っていきたいと思います。いろいろつながりをみんなが作れたらいいなと思ってます！



Ryota Yamaguchi
山口 遼太朗

2020 Seattle Class President/Group B Leader

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今年度も新型コロナウイルスの影響で遠隔授業が続いており、なかなか思うように学習や様々な活動を行うことが出来ない日々が続いている事かと存じます。しかし、遠隔授業の今だからこそできる学びも沢山あると思います。私たち2020年クラスは、シアトルに行くことはできませんでしたが、日本で多くのことを学びました。皆さまがウエストン先生の力強いサポートのもとで、多くのことを学べますよう、心から願っております。

不安も多いかと思いますが、頑張ってください。



Kodai Moriuchi
森内 滉大

2021 Seattle Class President/Group A Leader

みなさんこんにちは。2021年度会長の森内です。今年はコロナで様々なことができずにつらい思いをした人も多いと思います。僕自身、対面授業がなくなりオンラインでの授業がほとんどとなり、なれないことばかりで不安を感じる事が多いです。しかし、コロナの時期だからこそ新しいことに挑戦するチャンスだと思います。できないことに悲観せず、できることを見つけていきましょう。新しいことに挑戦していきたい皆さんの経験を積んでこれからの人生の糧にしてほしいと思います。応援しています。



Saya Oike
大池 紗矢

2018 Seattle Class Graduate/Group C Leader

私は、シアトルの海外研修に参加したくて経営法学科に入学しました。

たった一人で挑戦しましたが、今でもよく遊ぶ友達ができただけで良かったと思える理由です。シアトルでの生活は、思った以上に大変でしたが、初めてのアメリカは衝撃的なことがたくさんあり、自分自身の価値観を変えることができたと思います。

もし、迷っている人がいれば絶対に参加するべきです。参加して後悔することは絶対に無いと思います。大学生活を鮮やかにしてくれた本当に大切な思い出であり、これからも忘れることのない特別な体験でした。



Yukia Otsuka
大塚 千愛

2018 Seattle Class Graduate/Group A member

4年間という限られた大学生活をどう使うかは、自分次第だと思っています。私にとって国コミは、自分を試すきっかけでした。そして、ここで得た「失敗を恐れず、挑戦し続ける精神」があるからこそ今の自分がいると思っています。皆さんも仲間と一緒に色々なことにどんどん挑戦してってください。



Mariko Shiratori
白鳥 万理子

2018 Seattle Class Graduate/Group C member

現地で数週間過ごすことに不安からのスタートでしたが、あらゆる場面で出会った人達の優しさに沢山触れることができた貴重な研修でした。以降、カナダ研修にも参加させていただき、シアトルでの経験が大きなきっかけになったと感じています。

Closing Remarks

For the 2021-2022 FU Business Law Program/Seattle Class students, it was a year of coexisting with COVID. At the same time, through this year-long curriculum including a new intensive course in February of 2022 held principally on FU's campus, the students learned practically about many concepts connected to these studies in many different ways – lectures, power point presentations, group work and discussion.

I would like to thank the university specially the Faculty of Law for their ongoing support of this overall practical training curriculum which started in 2001 and now included an intensive spring course (Feb. 2022). I would also like to thank as well all of the OBs – Nozomi Takanagi (2002 Seattle Class President), Moeri Uemura (2017 Seattle Class) and Masateru Higashi (2015 Seattle Group C Leader) who either gave a presentation or shared their experiences with this year's students in the spring or fall semesters of 2021. In addition, I would like to thank Mr. Emanuel Ciarravano, Director of Operations, Amai Corporation for his presentation to students about Global Business Communication during the 2021 fall semester.

Concerning the intensive course, it emulated the overseas Seattle program in terms of on and off campus experiences. During the new intensive program, students went off campus to hear a presentation by Rakusuien/Shofuen/Yusentei General Park Director Masateru Kawano about Yusentei's history and culture. On campus, they also heard special presentations by U.S. Consul/American Center Director/Public Relations Official Yuki Kondo-Shah about the [Soft Power : Storytelling and Influence] ; FU Law School Professor/Lawyer Michiya Kimura lecture about Fukuoka Legal Clinic Law Office; French Chamber of Commerce and Industry in Japan Kyushu Director Jana Charles [French Chamber of Commerce and Industry activities in Kyushu & Charles Career Story]. At the end of the course, the students created their own educational program plans around the following themes: Protection of the Natural Environment, SDGs & Corporate Responsibility, American Democracy and Clean Energy. Then they made a presentation about their plans on the last day of the course.

Overall, students throughout the year had to move beyond their comfort zones to deepen their understanding of law and policy intercultural issues and global communication. I hope this year's students will also try to go overseas in the future on either a short or a long term study program.

Finally, please enjoy Mr. Kazuya Sonoya's (2018 Seattle Class member) special report on his long-term study in Seattle, which started in August of 2021 at the University of Washington.

終わりに

福岡大学法学部経営法学科専攻の学生そして2021年度経営法学科プログラム/シアトルクラスとして、新型コロナウイルスと共存する一年でした。同時に2022年2月に新集中コースを取り入れた今年のカリキュラムを通じて学生たちは、講義・パワーポイントのプレゼンテーション、グループワークそしてディスカッションなど多くの異なる方法でこのカリキュラムにつながる数々の概念について学びました。

私は特に、福岡大学として2001年から全体のカリキュラムと今年2月の集中トレーニングプログラムを常に支援して下さる法学部の皆さまにお礼を申し上げます。また前期後期を通して今年に学生たちにプレゼンテーションを行い、自分自身の経験を分かち合ってくれた高柳希さん(2002年シアトルクラス会長)、上村萌里さん(2017年シアトルクラス)、東真照さん(2015年シアトルクラスグループリーダー)など、全ての卒業生に感謝します。さらに後期に入ってグローバルビジネスコミュニケーションについてプレゼンテーションをして下さった、アマイコーポレーションのオペレーションディレクターであるエマニュエル・チャッパノ氏にお礼申し上げます。

新しい集中プログラムの期間に学生たちはキャンパスを出て楽水園・松風園・友泉亭公園の川野雅照統括園長から友泉亭の歴史や文化に関する講演を聞きました。彼らはまたキャンパスで、在福米領事館広報担当領事兼福岡アメリカンセンター館長ユキ・近藤・シャー氏による「ソフトパワー・ストーリーと影響」；福岡大学法科大学院教授/弁護士木村道也氏による「福岡リーガルクリニック法律事務所について」；フランス商工会議所九州デスク代表ヤナ・シャル氏による「フランス商工会議所の活動とシャル氏のキャリア談」などの特別講演を聴講しました。当コースの最後には、自然環境の保護・SDGsと企業責任・米国の民主主義とクリーンエネルギーなどのテーマに沿った教育的プログラムのプランを作成しました。その後コースの最終日に彼ら独自のプランに沿ってプレゼンテーションを行いました。

一年を通して全体的に学生たちは、法政事情・異文化問題・グローバルコミュニケーションなどの理解を深めるため、快適な今の状態を乗り越えて進まなければなりません。私は今年の学生たちが、長期であっても短期であっても何らかの学習プログラムを通して、将来海外に行くことを心から願います。

Special Report -Long Term Overseas Study at University of Washington, Seattle, USA

Kanata Sonoya 2021-2022 Long Term Overseas Study & Internship/2018 Seattle Class Group D member

特別寄稿—米国シアトルのワシントン大学に長期留学して

園野哉太 2021年から2022年の長期留学とインターンシップ / 2018年シアトルクラスグループDメンバー

勉強

現在、私はワシントン大学でグローバルビジネスを学んでいます。2018年に国際コミュニケーション/法政事情プログラムを活用し、シアトルへ留学したことがきっかけになりました。現地の人々との交流を通じて文化の違いを感じ、自分の視野が一段と広がりました。また、アマゾンやスターバックスのような世界的に有名なグローバル企業を訪問し、将来自分も海外で活躍できるビジネスマンになりたいと思いました。そのためには、語学力だけでなくビジネスに関する知識や現地の人々との協働経験が必要だと思い、渡米することを決意しました。授業では、マーケティング、通商、会計学等幅広く学んでいます。また、ケーススタディを行い学生同士で意見を交換し、発表を行うことが多いです。講義を聞くだけでなく、意見を求められるため日本の授業スタイルとの違いを感じています。周囲の意見に流されず自分の考えをしっかりと伝えること、分からないところはクラスメイトやインストラクターに質問し理解するよう心がけています。9ヶ月間の座学が終了した後はOPT(オプション・プラクティカル・トレーニング)を活用し、現地の企業で有給のインターンを行う予定です。OPTは大学のプログラムを卒業した後に与えられる制度で、学んだ専攻分野に関連性のある職種で最長1年間の企業研修を受けることができます。まだ業界や職種は決まっていますが、それまでに現地社会で活躍できる語学力や知識を身につけたいです。

インターンシップ

私は2022年の1月からシアトル・チャイナタウン・インターナショナル・ディストリクト・ブリザベーション・アンド・デベロップメント・オーソリティー(シアトルインターナショナル地区公共開発機構)で6ヶ月間の長期インターンシップを行います。OPTを利用してではなく、無給でボランティアとして働く予定です。実際に現地企業で働くことが異文化理解やビジネススキルの向上につながると感じ挑戦しようと思いました。私はコロナ禍で衰退してしまったチャイナタウンを再活性化化するプロジェクトに参加し、都市開発を推進する予定です。仕事内容は、データ管理、住民との意見交換、他社とマーケティング活動を行います。多くの方と交流する機会があるため、柔軟性や対人能力が求められると思います。自分の不足している点を見出し、自己成長に繋がられるよう有意義な6ヶ月間にしたいです。

ホームステイ、余暇

ホームステイ先では、アメリカ人のファミリーと生活しています。おしゃべり好きな性格でいつもジョークを言って笑わせてくれるため楽しい毎日を送ることができています。また、私は野球サークルと会話サークルに参加しています。普段ワシントン大学の学生と関わる機会が少ないため、自ら彼らと関わる環境を作っています。今後も周囲にアンテナを張りめぐらせ、輪を広げたいです。



Kanata Sonoya with SCIDpda (Seattle Chinatown International District Preservation and Development Authority) Manager An Huynh; Sonoya is presently engaged in an unpaid internship at this organization while enrolled in the University of Washington Global Business Certificate program.



Kanata Sonoya with homestay parents in Seattle.



Kanata Sonoya (far left) on a short trip to California during her school holidays in 2021

Fukuoka University Business Law Program
Seattle Class 2021-2022

発行 令和4(2022)年3月31日

発行者 福岡大学法学部

編集者 山下恭弘、ステファニー A. ウェストン

The soft power slide on the back cover of this brochure is courtesy of U.S. Consul Yuki Kondo-Shah from her presentation to students during the Spring Intensive Course (2022). Other cover photos were either taken by Professor Weston or given to her by friends in Japan or overseas.



<http://www.law.fukuoka-u.ac.jp/>



To be continued in 2022-2023



“

ソフトパワー

ナイ教授は「ソフトパワー」を「力や威圧に頼らず、望ましい方向に他国を説得する国の能力」と定義

